

日刊 磐城時報 廿六日 編輯部 印刷部 發行部 電話

どう落ちつく? 縣参の交替問題 議長に通告した文面

(福島通信) 縣参事會員一年交替問題はその後九名の縣参事會員が赤木知事並に釘本縣會議長に對し辭職の意志なき旨を通告し法の定むる處により一年交替を拒絶、一方縣参以外の縣會議員は約束不履行を攻撃し一騒動が捲き起らうとしてゐる。

平信用組合長は 結局諸橋久太郎氏

信用組合平庶民金庫では二十六したので遺族は遺言により左の如く寄附した。 午後二時から最高役員會を開き後任理事長選舉について協議する處あり、理事山崎與三郎氏を推薦し同氏に就任を求めたが山崎氏は辭退したので更に諸橋久太郎氏を推薦就任の交渉中である。

橘家で寄附

平町田町 藝妓屋橘家主人大河原福松氏は永らく病氣中の處二十五日死去此の見地より縣會役員任期の

月三十一午後六時から平館に開本年は天候その他關係から最くが、ノワオンブノ松原操千初の豫想二割増を裏切り平年作七〇森屋比佐雄、ビノ山田、代子の各氏來平する。

石城の稲作 結局五分減 湯本のチブス 石城郡下に於ける本年度の水稲作情況は遅くも今月末までに全郡刈終るものと觀られてゐるが

勿來、植田間で 磐中の發火演習 鮫川を挟んで遭遇戰 二十八日、泉校に露營

逐年増加を示す 小名濱の水産物 特に加工品が激増

各方面からの批難で 酒井猶次氏悄氣 落成後二ヶ月を過ぎて

恩給法に就て 讀者論談

映畫と音樂會 小名濱町の主要物産である水産特に注目するものがある。

六千二百六十圓 同五年數量四百一十一萬八千六百五十圓、價額四十三萬一千三百八十七圓 同六年數量、百九十九萬八千九百八十三圓、價額七十七萬九千六百三十八圓

和洋銅鐵金物問屋 釜屋商店

諸橋久太郎
電話九九九番



學生服賣出

温かい丈夫な黒小倉
通學服を豊富に取揃へ
特價にて提供

小學用 長ズボン付) ¥0.85
全……特製品 ¥2.00
中學用特製品 ¥2.90

ふかや洋服店 平二 電203

専門内科一般

〔内科ハ何デモ診療致マス
呼吸器病バカリデハアリマセン〕
平町南町六五改電話一八一番

川井内科診療所

醫學士 川井重子
女醫 川井安子

内科 小兒科
花柳病科

(入院應需)

藤沼醫院

平町紺屋町
電話平園五〇七番

心安積蓄 利低通融

三來無盡
許允臣大藏大
社會盡無用信本湯
番七四話電

腸胃 毒按
內科 專門
腸胃病 十二指腸病
醫學士 松村
院醫科 腸胃病 胃性
(七〇一話電) 町南町平

大藏大 許允臣
磐城無盡
誠意 醫術 金湯

廣告

新任外科部長
內木學士來任
七月十一日ヨリ毎日診療ニ從事ス

內臟外科 醫學士 內木宗八
整形外科 泌尿器科
昭和七年七月
平町新川町十九番地
產婦人科 木村病院
電話一六四番

平町田町(電話五二三番)
高久病院
醫學士 高久忠雄
新潟醫學士 赤羽菊雄
藥劑士 佐竹菊雄
內科 小兒科 外科 花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科

病室完備 平町南町
X光線科
上田外科醫院
電話一二九番
入院應需

花柳病科 專門
平町六丁目橋際
木村外科醫院
電話三〇九番

耳鼻咽喉科專門 氣管食道科專門

病室完備：自炊の便あり
平町南町 大和田醫院
電話一七〇番

カキ貝 御料理

松島名産
カキフライ 二十五錢
カキナベ 四十錢 其他
スカキ 二十錢
ランチルーム 一の井
御料理 電一六七

夏期中臨時大特賣トシテ御申中シマシタ石炭モ御蔭様デ全部ヲ賣リ盡シマシタ、就キマシテハ從來ノ石炭ヲ御申ヒスル事ニナリマシタカラ不相變御引立ノ程備ニ御申シマス。
◎正味十貫目 金三拾錢
御注文ハ
電話三七三番へ
平停車場前
阿部五炭商店

貨切御用命ハ
ゼヒ 三井自動車部へ
電話六八五番
乗合は 好間・合戸・澤渡方面行